100年たてば、
元の町に戻るかも
しれねえな―
原発事故で全町避難になった町に、
動物たちと住み続けた男はいま?
いまも
劇場版 ナオト、ひとりっきり
Alone again in Fukushima
出演・松村直登、松村代祐、半谷信一、半谷トシ子、富岡町の動物たち
監督・中村真夕　撮影・中村真夕、辻智彦　編集・清野英樹　製作・編集協力・山上徹二郎　製作・配給・Omphalos Pictures, Siglo　配給・宣伝協力・ALFAZBET
(2023年/日本/日本語/HDV/カラー/106分)
photo by Yasusuke Ota

感動しました、
巨大な事実を小さな事実を通して
長年個人的に追うことで、
現実にひそむ真実が見えてきます。
人間も他の生き物と同じ
限られたいのちを生きている
ことを感じさせるドキュメントです。
谷川俊太郎（詩人）

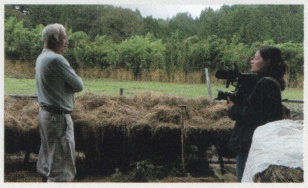
生きること、生かし続けること “ひとりでここに残ること”を決めた男の10年。

「オラ、何にも悪いことしてねぇ。悪いことしたのは国だべ」

原発事故による全町避難で無人地帯となった福島県富岡町に、いまも一人で暮らすナオトは、高度経済成長の裏側でカネに翻弄され続ける人生を送ってきた。原発事故後、人の人生を金で解決しようとする不条理、命を簡単に“ 処分 ”しようとする理不尽に納得できず、残った動物たちを世話しはじめた。生きること、生かし続けること。その日々の闘いが、ナオトの生きる道となっていた。

世界を驚愕させた『ナオトひとりっきり』（2015）。カメラはその後もナオトを追い続けていた！コロナの蔓延、東京オリンピックを経て、まだ終わらない福島は忘れ去られてしまうのか？

あれから8年。新たな命が生まれ消えていく中で、ナオトは変わらず動物たちに餌をやる日々を過ごしている。「将来の糧のため」ニワトリを飼い、蜜蜂を育て始めた。富岡は帰還できる町となったが、若い人たちは戻らない。コロナ禍で開催されたオリンピックでは「復興五輪」のPRとして、誰もいない福島の風景の中を聖火リレーが走り過ぎた。

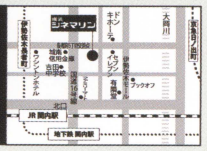


原発問題に終わりはない。汚染水はあふれかえり、ダダ漏れのように海上放出される。全国で原発再稼働の動きは、粛々と進められる。そんな私たちの矛盾の渦中で忘れ去られる福島で、ナオトは今、動物たちとどんな思いで暮らしているのか。ナオトの生きかたを見つめながら、私たちの今を考える。

〈福島県・富岡町〉 かつては出稼ぎに行かないと生活できない貧しい農村であったが、60年代末、福島第一・第二原発の建設により豊かな生活ができるようになる。2011年3月、原発事故により警戒区域となり、町民全員が家を追われ、家畜は全て殺処分が命じられた。現在は町の一部が帰還宣言をしたが、多くの住民は戻ってきていない。

13783.9km²
北緯 37度45分01秒
東経 140度28分04秒

3.4㊏より
終わらないロードショー

当日一般1,800円／会員1,500円／大専・シニア1,200円
高校生以下800円

横浜 シネマリン
R16長者町5丁目交差点沿
045-341-3180
www.cinemarine.co.jp